

カイカムリとカラッパ

水族館へ行こう!

京都大学白浜水族館



33

加藤 哲哉

2本のはさみを持ち、横歩きする生物と云えば、誰でも思い浮かべるのがカニだろう。種類も

だけいろいろなカニを見てもうたいと思ってい

毛に覆われているアカゲカムリがいる。カイカムリは「貝被り」の意味で、普通のカニははさみのほかに4対の歩く足があるが、カイカムリはそのうち後ろの2対が背中側に貝殻やカイメンなどを

ツパという和名はヤシの実という意味の現地語に由来するらしい。足が甲に隠れるようになって、砂の上に丸く鎮座している様はヤシの実に似てなくもない。カラッパは巻き貝を食べる。右のはさみの付け根近くに突起が出ていて、これを巻き貝の殻に差し込み、缶切りで缶詰を開けるように巻き貝を割って中身を食べる。浜辺で芯(しん)

カニのアパート拝見

多く、世界で6500種ほどが知られており、変わった特徴を持つものも多い。

白浜水族館ではできる

△カイメンなどを背負うように特化した足を持つアカゲカムリ

(水槽番号212)

ことがある。

このため一部のカニたちには小さく区切った水槽に入ってもうっている。いわばカニのアパートだ。少し狭いようだが、カニはあまり動き回らないし、区切られているので互いに安全である。

背負うように特化している。212水槽のアカゲカムリはかぶるものを与えられていないので、この特化した足を観察しやすい。

ただ、らせん状に残っている貝殻を見つけたら、カラッパの仕業かもしれない。カラッパは野外ではほとんど砂に潜っているが、水族館では、砂を浅くしているので、貝殻むき用のはさみをよく見ることが出来る。

アパートの住人にはカイカムリの仲間で、赤い

ツパ、マルソデカラッパなどの種類がある。カラ

(京都大学技術職員)